

年表

年	月	事項
1544年		ポルトガル船員が台湾を「麗しき島・Ilha Formosa」と賞賛。
1580年		スペインのイエズス会宣教師が初めて台湾訪問。
1593年		豊臣秀吉、原田孫七郎に高山国（台湾）に入貢を促す書類を託すも、届けることかなわず帰国。
1597年		明、澎湖島に游兵を置く。
1603年		オランダ、澎湖島を占領（10カ月後撤退）。
1609年		肥前のキリシタン大名、有馬晴信、台湾訪問。
1616年		長崎代官・村山等安が徳川家康の御朱印状を得て（1615年）台湾遠征を企図し、途中で遭難。
1622年		オランダ艦隊、澎湖島を占拠。
1624年		明、オランダに台湾を明外の地と約束。オランダ、澎湖島から撤退。オランダ東インド会社、安平にゼーランディア城を築き台南で砂糖のプランテーション事業を開始。
1626年		スペイン、基隆（鷓籠）を占領、サン・サルバドル要塞を構築。長崎の貿易商の手代、浜田弥兵衛が率いる日本船、ゼーランディアに拠るオランダに積み荷を没収される。
1628年		浜田弥兵衛、ゼーランディア城の長官、ノイツを拘束し、没収された積荷の賠償を得る。明に降りた倭寇の頭目、鄭芝龍、福建の農民数万人を連れて台湾中部を開拓。
1629年		スペイン、淡水（滬尾）を占領、サン・ドミンゴ要塞着工。
1639年		徳川幕府の鎖国政策により日本船の台湾貿易中断。
1642年		オランダ、スペインを駆逐して台湾北部を占領。
1652年		オランダ統治に抵抗し、郭懷一が蜂起。
1661年		鄭成功が台湾からオランダ勢力を駆逐。台湾を東都と改称。
1662年		鄭成功が急死。鄭経立つ。
1664年		鄭経、廈門から軍を率いて台湾に入り、東都を東寧と改称。
1681年		清軍が澎湖島を攻略。
1683年		鄭氏、清軍に降服。
1684年		清、台湾を福建省下に置き、一府三県制を敷く。この頃の台湾の人口、約30万人。
1721年		朱一貴、挙兵し中興王と称す。
1854年		米国ペリー艦隊が基隆に寄航、炭層を調査。
1856年		清と英仏連合との間でアロー号戦争勃発。
1858年		天津条約で、台南（安平）、淡水を開港。
1859年		聖ドミニコ会が台湾に神父派遣。
1863年		基隆を開港。
1867年		米国船ローバー号の乗員が先住民に殺害されるローバー号事件発生。この後、米国は台湾南部18番社連合と難破船乗組員保護条約を締結。
1871年		日清修好条規締結（批准交換、1873年）。琉球漂流民が殺害される牡丹社事件発生。
1874年		日本、牡丹社事件に対する懲罰行動として台湾出兵。清、北京における日清両国互換條款で琉球民を日本属民と認得。
1884年		清仏戦争勃発（1883年）のため、フランス軍、基隆砲撃。
1885年		清仏戦争終結。天津条約でベトナムはフランスの保護国となり、清は宗主権を失う。清、台湾を福建省から独立させ、台湾省とする。
1886年		劉銘伝が初代台湾巡撫として着任。
1891年		台北へ省都を移転。
1894年		日清戦争勃発。
1895年	3月	日本軍の比志島支隊、澎湖島占領。
	4月	日清講和条約（下関条約）締結。台湾の日本への割譲決定。
	5月	清、台湾を日本に引き渡す。日本、台湾総督府編成、初代総督に樺山資紀。
	5月	台湾委譲への反対住民、台湾民主国独立宣言。
	6月	総督府始政式挙行。
	11月	総督府、全島平定を宣言。この頃台湾の人口、約250万人。
1896年	1月	台湾阿片令公布、阿片を専売に。
1897年	5月	台湾住民の国籍選択最終期限（日本か清かの選択期限）。
1898年	9月	土地調査事業開始。

	11月	匪徒刑罰令施行。
1899年	9月	台湾銀行営業開始。
1907年	11月	新竹北埔支庁襲撃事件発生（北埔事件）。
1908年	4月	南北縦貫鉄道全線開通。
1911年	10月	辛亥革命で清滅亡。中華民国成立し、首都を南京に置く（1912年）。
1912年	3月	林杞埔事件発生。
	8月	長崎と淡水の間で直通の電信回線が開通。
1914年	12月	板垣退助、台湾同化会を創設し内台の融合を提唱。
1915年	2月	台湾同化会解散。
	8月	西来庵事件（抗日蜂起）発生。その後死刑判決は866人にのぼる。
1919年	1月	台湾教育令を公布。
	4月	台湾電力株式会社令公布。
1920年	1月	在日台湾人留学生を中心に新民会結成。会長に林獻堂。
	7月	在日台湾留学生が『台湾青年』創刊。
1921年	1月	帝国議会に第1回の「台湾議會設置請願書」提出。
	10月	台湾文化協会結成。台湾の自治権拡大を要求。
1922年	12月	治安警察法を台湾に施行。
1923年	4月	皇太子裕仁摂政官（後の昭和天皇）台湾視察。
	12月	台湾議會設置請願運動を取り締まる「治安警察法違反事件」起こる。
1927年	7月	台湾文化協会が分裂し、政治結社として台湾民衆党結成。
1928年	4月	謝雪紅ら上海のフランス租界で日本共産党台湾民族支部結成。
	4月	台北帝国大学開校式挙行。
1930年	2月	台湾民衆党が分裂。
	4月	嘉南大圳竣工。
	8月	台湾民衆党の分派が台湾地方自治聯盟結成。
	10月	霧社事件発生。先住民族6部落、約300人が蜂起、連合運動会開催中の公学校等を襲撃、日本人134人を殺害。
1931年	2月	台湾民衆党が解散。
1934年	9月	台湾議會設置請願運動停止。この頃、日本語の普及率が60%程度に。
1935年	4月	地方制度改正律令並に布令公布。
1937年	7月	日中戦争勃発。この頃より台湾で皇民化運動推進が始まる。
	7月	台湾地方自治聯盟解散、公の政治結社（政党）がなくなる。
1940年	2月	台湾での改姓名運動始まる。
1941年	3月	台湾教育令を改正公布、小学校公学校を国民学校に一本化。
	4月	皇民化推進の皇民奉公会発足。
	12月	日本、対英米宣戦布告。
1942年	4月	第1回高砂義勇隊を募集。
1943年	4月	6年制義務教育実施。
1944年	9月	台湾で徴兵制実施（台湾人軍人・軍属合計20万人余）。
1945年	8月	日本、ポツダム宣言受諾し降服。
	9月	連合軍総司令部指令第1号発表で、在台湾日本軍の中華民国への降服決定。
	10月	国府（中国国民党主体の中華民国政府）の部隊と台湾省行政長官公署の人員が、接收のため台湾に到着。
	10月	台湾の行政権は台湾省行政長官・陳儀へ。
	12月	在台湾日本人の引き揚げが始まる。
1946年	4月	在台湾日本人の引き揚げ完了。
	5月	勅命により台湾総督府廃止。
1947年	2月	タバコ密売をめぐる市民と警察の衝突が発生、二・二八事件に発展。
	5月	台湾行政長官公署制を廃止、省政府制へ。
1948年	5月	動員戡乱時期臨時條款施行。
	5月	蒋介石、第1期総統に就任。
1949年	1月	蒋介石、総統辞任。李宗仁副総統総統職を代行。
	5月	国府、台湾省に戒嚴令施行。
	6月	新台幣発行弁法、4万台湾元を1新台幣元に。
	10月	中国共産党政権、中華人民共和国の建国を宣言。首都北京。
	12月	国府、台北を中華民国の臨時首都に指定。

1950年	1月 3月 6月	中華民国、英国と断交。 蒋介石、総統に復職。 米国大統領トルーマン、「台湾海峡の中立化」を宣言。米国第7艦隊を台湾海峡に出動。
1951年	2月 6月	米華共同防衛相互援助協定調印。 農地改革の「公有地払い下げ」実施。
1952年	4月 10月 12月	日華平和条約調印。日本、中華民国と国交修復。 中国青年反共救国団設立。 日本語と台湾語の教学を厳禁。
1954年	3月 12月	蒋介石が総統再選。 米華相互防衛条約調印。
1955年	11月	華僑帰国投資条例施行。
1956年	2月	廖文毅が東京で台湾共和国臨時政府を樹立。
1957年	6月	岸信介首相、中華民国訪問。
1958年	10月	蒋介石・ダレス共同声明で、武力による大陸反攻を放棄。
1960年	3月 4月	蒋介石総統三選。 台湾独立を主張する『台湾青年』東京で創刊。
1961年	9月	蘇東啓（雲林県議員）、台湾独立陰謀容疑で逮捕（蘇東啓事件）。
1962年	5月 10月	国防税新設。 テレビ放送開始。
1964年	2月 2月 9月	中華民国、フランスと断交。 吉田茂・元首相、中華民国訪問。 台湾人民自救宣言事件で台湾大学教授・彭明敏ら逮捕。
1965年	4月 6月	日本政府、中華民国に対し1億5,000万米ドルの円借款協定締結。 米国が対中華民国経済援助を打ち切り。
1966年	3月	蒋介石、総統四選。副総統には嚴家淦が選出。
1967年	2月 7月 9月	国家安全会議と国家安全局設立。 台北市が行政院直轄市となり、台湾省と同格になる。 佐藤栄作首相、中華民国訪問。
1968年	9月	9年制義務教育制度発足。
1970年	1月 4月	米国で台湾独立建国聯盟結成。 蔣経国・行政院副院長、ニューヨークで狙撃される。
1971年	7月 10月 12月	米国キッシンジャー国家安全保障大統領補佐官が秘密裏に中華人民共和国訪問。 中華人民共和国が国連に加盟、中華民国は国連から脱退。 台湾キリスト教長老教会、台湾住民の自決を求める「国是声明」を発表、民主化訴え。
1972年	3月 9月 12月	蒋介石、総統五選。副総統には嚴家淦が選出。 日本、中華人民共和国と国交正常化し、中華民国と断交。 財団法人交流協会、亜東関係協会設立。
1973年	2月	対米ドル、元切り上げ。1ドル=38元に。
1975年	1月 4月	台湾語のローマ字聖書没収。 蒋介石総統死去、嚴家淦副総統が総統に昇格。
1977年	11月	不正選挙に抗議する中壢事件発生。
1978年	3月	蔣経国、第6期総統に当選。
1979年	1月 1月 2月 4月 12月	米国、中華人民共和国と国交正常化、中華民国と断交。 中国全国人民代表大会常務委員会が「台湾同胞に告ぐ書」発表。 中正国際空港開港。松山空港の民間部門は国内線専用。 米国台湾関係法制定。 高雄で国際人権デー記念集会。民主化運動弾圧に発展（美麗島事件）。
1980年	12月	ハイテク産業の「新竹科学工業園区」入居企業の操業開始。
1981年	7月	カーネギーメロン大学の陳文成助教授、台北で虐殺される（陳文成事件）。
1984年	3月 3月 7月 10月	蔣経国、第7期総統に再選。 李登輝、副総統に当選。 労働基準法成立。 『蔣経国伝』著者の江南が米国の自宅で暗殺される（江南事件）。
1985年	8月	江南事件を受け、レーガン大統領、国民党政権に民主化を勧告。
1986年	9月	民主進歩党結成。

1987年	1月 7月 11月	為替自由化推進。 戒厳令を解除、国家安全法施行。 中国大陸への親族訪問解禁。
1988年	1月 1月 1月 7月	新聞の新規発行解禁。 蔣経国総統死去、李登輝副総統が総統に昇格。 李登輝、中国国民党主席代行に就任。 中国国民党第13回大会開催、李登輝が党主席に就任。
1989年	1月 4月 7月 9月 12月	中華人民共和国、国務院に台湾事務弁公室を設立。 ジャーナリスト鄭南榕、国民党政府に抗議して焼身自殺。 台湾の人口、2,000万人を突破。 二・二八事件を描いた「悲情城市」がベネチア映画祭でグランプリ獲得。 戒厳令解除後初の立法院選挙で民主進歩党躍進。
1990年	1月 3月 3月 6月 10月 10月	「台湾・澎湖・金門・馬祖」の名で、GATTに復帰申請。 台湾プロ野球がスタート。 李登輝総統、第8期総統に当選。 李登輝総統主催により国是会議開催、総統の直接選挙などを決定。 民主進歩党が「台湾の主権独立」の決議案採択。 総統府に国家統一委員会、行政院に大陸委員会を設置。
1991年	3月 5月 7月 12月 12月	台湾に海峡交流基金会設置。 李登輝総統、動員戡乱時期の終結を宣言、憲法戦時臨時条項廃止。これにより中国共産党との戦争状態中止宣言。名実ともに大陸反攻放棄。 国家建設6カ年計画はじまる。 中国に海峡兩岸関係協会設置。 大陸選出の終年議員一斉退職。
1992年	5月 8月 12月	刑法100条内乱罪規定廃止。 韓国、中華人民共和国と国交正常化し、中華民国と断交。 第2期立法院選挙。
1993年	4月 8月	台湾海峡交流基金会、中国海峡兩岸関係協会とシンガポールでトップ会談。 中国国民党から「新党」分裂。
1994年	2月 12月	李登輝総統、東南アジア歴訪。 台北・高雄両市長、台湾省長住民直接選挙実施。台北市長に民主進歩党候補の陳水扁が当選。
1995年	3月 6月 10月	国民健康保険制度施行。 李登輝総統、米国訪問。母校コーネル大学で講演。 終戦50周年行事。
1996年	3月 3月 10月	中国人民解放軍が台湾近海へのミサイル発射訓練を開始。 初の総統直接選挙で李登輝総統が第9期総統に当選。副総統に連戦（行政院長を兼任）。 民主進歩党から「建国党」分裂。
1997年	3月 7月 8月	ダライ・ラマ14世が来台、李登輝総統と会談。 国民大会で台湾省の機能を簡素化する等の憲法改正採択。 連戦内閣総辞職。
1998年	8月 12月	台湾初の商業通信衛星「中新1号」を仏領ギニアで打ち上げ。 台北市長に中国国民党候補の馬英九が当選。
1999年	1月 7月 9月	台湾発の科学衛星「中華衛星1号」を米フロリダ州で打ち上げ。 李登輝総統、「二国論」発言。 台湾中部南投県を震源地とするM7.6の大地震が発生。6,400余名が死傷。
2000年	3月 3月 3月 5月	総統選挙で民主進歩党の陳水扁候補が第10期総統に当選。 李登輝総統、中国国民党主席を辞任。 宋楚瑜を主席とする「親民党」設立。 陳水扁、総統に就任。初めて選挙による政権交代が実現。
2001年	1月 4月 8月 8月 11月 11月	金門、馬祖両島での「小三通」開始。 李登輝前総統訪日。 李登輝前総統の支持者で組織する「台湾団結聯盟」設立。 経済発展諮問委員会で322項目のコンセンサス。対中投資は「積極開放、有効管理」へ。 林信義経済部長、平山経済産業大臣（当時）に日台FTAの民間研究を提案。 カタルーでのWTO閣僚会合で独立関税地域としてWTO加入が決定。

	12月	第5期立法委員選挙実施、中国国民党の歴史的敗北で民主進歩党が第一党に。台湾経済が大きな打撃を受け、経済成長率はマイナス1.91%。
2002年	1月 3月 5月 7月 8月 12月	「台湾、澎湖、金門、馬祖関税地域」としてWTO加入。 半導体8インチウエハーの中国投資が条件付きで解禁。 行政院、「挑戦2008－6カ年国家発展重点計画」を決定。 陳水扁総統、民主進歩党の主席に就任。 陳水扁総統、「一辺一国」発言。 台北・高雄市長選挙、ともに現職が勝利。
2003年	1月 2月 2月 5月 5月 6月 7月 9月 11月	中台間において、台湾航空機による春節チャーター便が就航。台湾機の中国への営業飛行は1949年以来初めて。 国民党と親民党、総統選挙での統一候補擁立に合意。 産業高度化促進条例が改正され、法人税5年免税の範囲が拡大。 日本を含む31カ国に対し、査証免除期間を14日から30日へ延長。 WHO、SARSに関連し台湾への渡航延期を勧告。 外交部、パスポートへの「TAIWAN」の表記追加を決定。 WHO、SARS感染地域指定から台湾を解除。 陳水扁総統、「2006年新憲法制定」発言。 立法院、公民投票法を可決。
2004年	3月 5月 8月 9月 10月 11月 12月	総統選挙と公民投票を同時実施。陳水扁が第11期総統に当選。 陳水扁が第11期総統に就任。 立法院、国会改革に関する憲法修正案を可決。 韓国と12年ぶりに定期航空路線再開協定に署名。 日台友好議員懇談会、日台交流強化を決議。 バヌアツとの国交樹立。初めて中国との断交を条件としない国交樹立。 台北－ソウル航空路線の定期便再開。
2005年	1月 1月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 11月 12月	グレナダとの国交断絶で、中華民国友好国は26カ国となった。 兩岸の旅客機、56年ぶりに相互乗り入れ。 中国、「反国家分裂法」制定。 国民党の連戦主席、中国訪問。 親民党の宋礎瑜主席、中国訪問。 台湾漁業船60隻、日本に抗議。尖閣近海取り締まりに反発。 馬英九・台北市長、国民党主席に当選。 日本、台湾人に対する短期滞在(90日)査証免除措置恒久化決定。 日本政府が9月26日から滞在期間が90日を超えない台湾からの観光客に対して入国ビザを免除する政令を正式に通知した。 今年、台湾を訪れる日本人旅行客が、11月21日に初めて100万人の大台を突破した。 2005年県・市長選挙、県・市議会議員選挙、末端地方自治体の郷と鎮の首長選挙が3日、行われた。
2006年	1月 3月 4月 5月 6月 6月 7月 8月	游錫堃・前総統府秘書長、15日に民進党主席に当選。 最大野党・国民党の主催で12日、国民生活の向上を訴える大規模なデモが台北市内で行われた。デモは、「生活本位の政治を行い、台湾を救え」をメインスローガンに行われ、約3万人が参加。 連戦氏、16日に中共の胡錦濤氏と会談。 台湾・国民党の機関紙「中央日報」資金打ち切り、停刊へ、本部ビル売却、機関紙停刊 台湾・国民党、改革推進。 中華民国史上初の総統罷免案、国会での審議が決定。 中台直行便、拡大に合意 人と経済交流より活発化。 台湾経済永続発展会議の開催。 アフリカのチャドと国交断交 チャドは中国との国交樹立。